

これまでとこれからの富山における情報教育

情報 I 教育研究会・富山県立大門高等学校

教諭 中西 純

1. 「情報 I 教育研究会」

2022 年度に実施された学習指導要領改訂により、従前の情報科目よりも高度な内容を扱う「情報 I」が必修科目となり、来年度実施の大学入学共通テストから情報 I が導入され、国立大学の多くが必須科目として課されるようになった。このため、情報科教員の指導力向上が求められている。高教研情報部会では、県教育委員会や富山大学等と連携し 2022 年度に「情報 I 教育研究会」を立ち上げ、富山大学大学院教職実践開発研究科林教授をはじめとした先生方の助言の下、情報科教員としての研修を行なっている。

一昨年度「情報 I 実践事例集」を作成した。昨年度には、改訂版の発行を行い、事例集を基とした授業の実施、および実践事例の改善等の活動を行ってきた。さらに、今年度は『情報×探究』に着目し、総合的な探究の時間を想定した課題解決型学習を意識した事例集の作成を進めている。

2. これまでの富山における情報教育

1. 情報科教員の育成と採用

富山では、情報科の教員免許取得において限定免許講習が重要な役割を果たした。この制度により、数学や理科をはじめとした教員が情報科免許を取得し、情報教育を支えてきた。2004 年から 2021 年の間に採用された情報科の専任教員の数が 14 名であったことで、限定免許講習での免許取得者への負担が大きいまだだった。また、他教科教員や学校全体の情報科への期待は、Microsoft Office などの基本的な IT スキルの習得が中心であった。これにより、情報教育が「ツールの使い方を学ぶ場」ととどまるという側面が強調され、情報科学やプログラミングといった本質的な情報教育の重要性が十分に認識されていなかった可能性がある。

2. 2025 年大学入試における情報科目の導入と情報科目の拡大

2025 年に大学入学共通テストに情報 I が導入されることは、情報科が注目を集めるきっかけとなった。一部では、英語科の外部検定活用の例を引き合いに出し、制度が断念されるのではないかという懸念もあった。しかし、最終的に情報 I が大学入試の正式な科目として採用されることが決まり、高校の情報教育の重要性を再確認し、教育現場でのカリキュラム見直しを促すきっかけとなった。さらに、一部の大学では情報 I や情報 II を入試科目として設定する動きが進んでいる。特に、公立大学などで情報 II の報道があったことは、情報教育が高校だけでなく大学教育にも影響を与える広がりを見せていることを示している。このような動きは、情報教育の深化と普及を後押しする契機となった。

3. ここ数年の動向とこれからの展望

1. 大学入学共通テストと情報Ⅰの導入

2025年から大学入学共通テストに「情報Ⅰ」が加わることが決定し、情報教育が全国的に注目を集めた。情報科の授業内容が見直され、生徒が実践的なITスキルを身につける機会ができた。また、プログラミング教育の拡充に伴い、Pythonをはじめとした実用的な言語を用いた演習が導入され、実際の課題解決に役立つスキルを育成している。

2. 生成AIによる新しい学びの創出

生成AIの進化に伴い、生徒はAIを活用して創造的な実習に取り組む機会が増えると考えられる。これにより、AIを単なるツールとして使うだけでなく、AIと協働して新しい価値を生み出す力が身につくことを期待したい。

3. アプリケーション・ゲーム制作

アプリやゲーム開発をカリキュラムに組み込むことが予想される。生徒はプログラミングスキルだけでなく、企画力やデザイン力も身につけ、実社会で通用するスキルを磨くことが可能になることが期待される。

4. データサイエンスの普及

情報教育の中核として、データ分析の基礎を学ぶ取り組みが進む。高校では統計やデータビジュアライゼーションを学ぶ機会が増加し、社会で求められるデータリテラシーの育成が意識されている。

5. VRゴーグルの活用と仮想空間研究

今後、VR技術を活用した教育が本格化すると予想される。VRゴーグルを用いて科学実験や歴史的建造物の仮想体験など、体験型学習が取り入れることが可能になる。また、仮想空間での学習やコミュニケーションを研究することで、教育の新たな可能性が広がることを期待する。

6. 展望

「情報Ⅰ」の必修化に伴い、各校で情報科教員が役割を担っているが、多くの高校で情報科教員が1校1名のため、教員間での情報共有や相談の機会が限られている。授業の準備や指導に関する課題を1人で抱え込まないように、情報Ⅰ教育研究会を通して、教員同士が互いに支え合う機会を持ち、情報教育の質を高めたい。

